opusdei.org

属人区長の書簡 (2012年2月)

愛徳の成熟した実りは一致です。教会において熱望されているこの一致について、オプス・デイ属人区長は、どのにス・に毎日実践していくかにしまりて、様々な方法を提案します。

2012/02/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 2日前の1月30日、教皇様との謁見に 与った喜びをお伝えします。他の機 会と同じように、あなた方の祈りと 共に伺いました。属人区の信者と協 力者が有するキリスト者としての神 に対して忠実でありたいという望み を伝え、教皇様とその意向のために 皆が絶えず祈っていることを改めて 強調しました。教皇様は、いつもの ように深い愛情をお示しになり、教 会におけるオプス・デイの奉仕に感謝 の意を表されました。そして、属人 区の信者と、世界中の使徒職活動に 対する教皇祝福を伝えるよう依頼さ れました。

聖なる母である教会を全面的に助けたいという熱意をもって、いつも教 導職の教えを支持しましょう。 日々、Omnes cum Petro ad lesum

per Mariam(皆がペトロと共にマリアを通ってイエスへ)、を実践するようにしましょう。教皇様を心から

愛しなさい。数ヵ月後に開始される 信仰年の準備にいそしみ、信仰の徳 を深め、多くの人々のもとにたどり 着けるように努めましょう。

先週の聖パウロの回心の祝日をもって、キリスト教一致祈祷週間が終わりました。聖霊の導きの下、ことを方向に少しずつ進歩していることを対に感謝しましょう。そして、慰め高に、その恩恵の効果が次第に最もないる人々が、最後の晩餐でイエスがut omnes unum sint, sicut

tu, Pater, in me et ego in te! [i] 父 よ、あなたが私の内におられ、私が あなたの内にいるように、全ての人を一つにしてください、と嘆願され たことの実現を目指すように心を動かしてくださるように願いましょう。

オプス・デイでは、毎日、pro unitate apostolatus使徒職の一致の ために祈っています。これは聖ホセ マリアがオプス・デイ開始の頃に定め たことです。そして、この祈りがい かに大切であるかをずっと説き続 け、「実践していることを祈る」よ う促していました。創立者は、キリ ストを信じている人たちばかりでな く、全人類が一致するようにという 願いが、何よりも各自の生活におい てそれを現実のものとするよう努力 するという点に表れることを望んで おられました。

私たちの信仰上の兄弟である初代の信者たちは、次のような明確な教えを残しています。「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」[ii] 私たちは、初代教会の歴史を要約しているこの箇所を幾度も考察しました。創立者は度々この箇所を引用され、オプス・ディの初期に作られたある聖堂

の壁に刻み込むことを望んだほどでした。ローマのペンショナートでの活動が始まった時も同じことを考え、壁にこの言葉を記すよう指示しました。そして、「オプス・デイの精神は初代信者と同じものです」[iii]と強調され、教会の道を切り開いたと強調され、教会の道を切り開いた人たちと同じ振る舞いをいつもす。ように私たちを励まされたのです。

教皇ベネディクト16世は、「エルサ レムの初期キリスト教共同体は一致 と愛の場として特徴づけられる」 [iv]これら四つの性格について、聖 ルカは過去の状況を語ろうとしてい るのではなく、「これを現在の教会 の模範、規範として示します。なぜ なら、これら四つの性格が教会生活 をつねに築かなければならないから です | [v] と強調しておられます。 確かに、使徒の教えに忠実であるこ と、心と思いを一つにすること、聖 体祭儀を挙行すること、熱心に祈る こと、これらは真のキリスト信者と

しての生活を支える大黒柱であり、 この世において教会の使命が全面的 に実現されるために不可欠なことで す。

一致のための祈りという観点から、 具体的に、あの当時の女性や男性を 一致させていた愛徳について述べた いと思います。聖ルカも言っている ように「信じた人々の群れは心も思 いも一つにして」[vi]いたからで す。

聖アウグスティヌスは「愛徳が一分でスティヌスは「愛徳は大きないで、高慢はまって、対して、で対して、で対して、では対して、ではがいて、なり、というのもないが、できないのもないが、ができないではが、がいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるができなっている人、自身ではないるができない。自身になっている人がはない。

の惨めさを追い払おうとしない人、 こういう人たちはよい道具になり得 ません。逆に、聖パウロが忠告する ように、いつわりのない「誠実な 愛| [ix]は絆を強め、お互いの考え や振る舞いの違いを尊重しつつ、多 様な人々の間の兄弟愛を確実なもの にし、それを維持します。それゆ え、キリスト者の一致のための誠実 な祈りには、謙遜と愛徳の具体的な 実行が伴っていなければならないの です。創立者が説明しています。 |この一致を実現させ維持していく のは骨の折れることです。それは、 謙遜の行為、自己放棄、沈黙、耳を 傾け理解すること、隣人の善のため に高貴な心で人々に関心を持つこ と、必要ならいつでも許すこと、つ まり真実に実際に愛することで育ま

キリスト者にとって、人生で出会う 全ての人々との付き合いは単なる礼 儀とか習慣の問題ではなく、神ご自

れるものです。| [x]

ベネディクト16世は、回勅『神は 愛』の中で、「感情は生じては消え ます。それは、初めに生じた時は美 しく見えるかもしれませんが、愛全 体をあらわすものではありません」 [xi]と説明されました。自己放棄を 通して清め、成熟させなければなり ません。そうしてのみ、感情は「こ とばの完全な意味で愛となりま す。」[xii] 最高の模範はイエス・キリストで す。ですから、キリスト教の愛徳 は、主が私たちを愛されたように愛 することなのです。主は、私たちを 愛し救うため御父にご自分を完全に お捧げになり、最後の晩餐では次の 遺言を与えられました。「あなた方 に新しい掟を与える。互いに愛し合 いなさい。私があなた方を愛したよ うに、あなた方も互いに愛し合いな さい。互いに愛し合うならば、それ によってあなた方が私の弟子である ことを、皆が知るようになる。」 [xiii] 初代信者の共同体においてこの 新しい掟は、異教徒たちが「ご覧、 何と愛し合っていることか| [xiv]と 驚くほど、明白に実現されていまし た。

キリスト教の真の愛徳、つまり人となられたみことばの聖心に宿る愛に参与するということは、犠牲によって育まれるということです。自己主張ではなく人々の善を求めるのであ

り、決して終わる事のない務めであ るのです。主と聖母、そして神と隣 人をこよなく愛した聖人たちの模範 を見つめて、愛することを学ばなけ ればなりません。毎日、日に何度で もやり直す責任を考え、人々に対し て、小さな、時には重要なことにお いて、細やかな心遣いを示し、人々 の支えになりましょう。人々は気づ かないかも知れませんが、父なる神 が見過ごされることはありません。 創立者が私たちに、預言者のDiscite benefacere [xv] 善を行うことを学 べ、ということばを繰り返しておら れたことを思い起こし、任されてい ることをきちんと終えることを学び ましょう。

このように振舞う時、「聖書によって、すなわちイエスによって告げ知らされた意味での隣人愛が可能であることが明らかになります。私は、私が好きでない人や、私が知らない人でさえも、神の内に、また神と共

に、愛するからです。このような愛は、内的な意味で神と出会うことによってのみ可能です。内的な意味でもとにより、私たちはものの感じ方までも含めて、神と共通の意志を抱くに至るからです。そもしてだけでなく、イエス・キリストの目で見るようになります」[xvi]

このように振舞うには、繰り返しま すが、確かに自分自身のことを忘 れ、自分にかまけないように努める 事が必要です。愛徳と謙遜は緊密に 一つとなって進むものであり、その 成熟した実りが一致なのです。「心 から自分の無を悟った時、神の御助 けがなければ自分より弱くもろい人 にさえも劣ることが分かった時、さ らに、どのような恐ろしい過ちを犯 すかもしれないことや、多くの不忠 実を避けるためどんなに必死で戦お うともあくまで罪人である自分に気 づいた時、そのような時に、他人を

悪く思うことがどうしてできましょ う。

謙遜であれば、今述べたような接し 方、つまり隣人との最も望ましい付 き合い方ができるようになります。 全ての人を理解し、全ての人と共に 生き、すべての人を許す、また、人 を区別したり隔たりを置いたりせ ず、いつも人々の一致に役立つよう に働きます。」[xvii]

て、毎日喜んで、何か小さな奉仕を しているでしょうか。家庭や職場、 頻繁に付き合っている友だちの間 で、誠実な友情と神の愛に基づく愛 情をもって、「キリストのよき香 り」[xviii]が表れ出るように努めて いるでしょうか。

「キリスト信者がこの世で実行すべき第一の使徒職、つまり、真実のな信仰の証しは、真実の変と教会を支配するよう力を貸すこれたりででいる。互いに心から愛し合わならでは、そして、攻撃、中傷、いきにいなりでできるはずもできるとなどできるはずものようとなどできるはずものようにに、以下によったがある。」[xix]

主は私たちに様々な社会環境において、理解しゆるすことを実行し、広めるようお望みです。これは人々もまた期待していることであり、キリスト者一人ひとりが招かれているこ

とでもあります。神秘体の中の一致 を壊すことなく、様々な性格や教 育、文化の違いを認めつつ、すべて を両立させ得るキリストの愛によっ て行動する時、この種まきが可能に なります。「使徒は、人間の多様 性、一人ひとりの違いを否定しませ ん。各々は神から独自の恩寵を受け ており、それぞれ異なる存在だと 言っています(1コリント7.7参 照)。むしろ、そういった違いを教 会の善に役立てるべきです。今私は 主に向かって、教会の中に愛の不足 による分裂が生じることのないよう 強くお願いしたいと思っています。 (…)愛徳はキリスト信者の使徒職 にあって塩の役目を果たします。万 一、その塩が味を失うようなことに でもなれば、ここにキリストがおら れると堂々と胸を張って人々に表明 することはできなくなるでしょ

う。」[xx]

2週間後の2月14日は、オプス・デイにおける1930年の女性に対する使徒職活動の開始と、1943年の聖十字架司祭会設立の記念日です。創立者は、別々の年の同じ日付を、オプス・デイの一致を切に望まれた神のみを切に望まれた神のよるものだと考えていましまるものだと考えていましまるものだと考えていましまりが、何よりが、何よりが、何自身の生活と私たちの周りで、せん。

教会の全司牧者たちのために祈りますという。皆が、神秘体の見えるっと共にマリアを通って者のアとが、ないでは、ないでは、ないでは、この世も私のはない。その羊も私のはない。その羊も私のはない。その羊も私のはない。その羊も私のかりでは、いいない。その羊も私のかりでは、いいないができるがある。その羊も私のかりである。その羊も私のかりである。その羊も私のかりである。その羊も私のかりである。その羊も私のかりである。

聞き分ける。こうして、羊は一人の 羊飼いに導かれ、一つの群れにな る。」[xxi]

いつものように私の意向に一致してください。具体的には、来る18日に助祭叙階を受ける属人区のアソシェートである私の息子たちのため、特別に祈ってください。

心からの愛情を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2012年2月1日

[i] ヨハネ17, 21.

[ii] 使徒言行録2, 42.

[iii] 聖ホセマリア、1963年4月23日 説教のメモ。

[iv] ベネディクト16世、2011年1月 19日一般謁見の講話。

[v] 同上。

[vi] 使徒言行録4,32.

[vii] ベネディクト16世、2012年1月 22日お告げの祈りでの講話。 [viii] 聖アウグスティヌス、説教46, 18(PL38, 280)。

[ix] 2コリント6,6参照。

<u>[x]</u> 聖ホセマリア、1972年説教のメ モ。

[xi] ベネディクト16世、2005年12月 25日回勅『神は愛』17。

[xii] 同上。

[xiii] ヨハネ13, 34-35.

[xiv] テルトゥリアヌス、護教論39, 7(CCL1,151)。

[xv] イザヤ1, 17.

[xvi] ベネディクト16世、2005年12 月25日回勅『神は愛』18。

<u>[xvii]</u> 聖ホセマリア、『神の朋友』 233。 [xviii] 2コリント2, 15.

<u>[xix]</u> 聖ホセマリア、『神の朋友』 226。

[xx] 同上234。

[xxi] ヨハネ10,16.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2012nian-2yue/ (2025/12/16)